

令和5年度佐野中学区市政懇談会

日時：令和5年7月8日（土） 13：30～15：00

場所：佐野コミュニティセンター

【事前質問】	3
1 柏野自治会 交通安全対策の実施について	3
（道路管理課，保健給食課回答）	3
【懇談内容】	3
1 高野小貫山自治会 子育て世帯訪問支援事業について	3
（子ども部長回答）	3
（市長補足）	3
（高野小貫山自治会 再質問）	4
民生委員児童委員の役割と違うところはあるのか。	4
（子ども部長回答）	4
（市長補足）	4
2 下高場自治会 佐和駅東地区の区画整理事業について	4
（都市整備部長回答）	4
（下高場自治会再質問）	5
（都市整備部長回答）	5
3 高野宿自治会 渋滞緩和対策について	5
（都市整備部長回答）	5
4 小貫山自治会 障害児サービスの自己負担額について	6
（保健福祉部長回答）	6
（市長補足）	6
5 高野原自治会 介護施設のコロナ対策に対する指導について	6
（保健福祉部長回答）	7
（市長補足）	7
（高野原自治会 再質問）	7
6 柏野自治会 佐野運動広場テニスコート跡地の利活用について	8
（市民生活部長回答）	8
（都市整備部長回答）	8
7 高野原自治会 高野小学校の塗装，修繕について	8
（教育部長回答）	8
8 高野原自治会 小学生へのリュックサック支給について	9

(教育長回答)	9
9 佐和駅前自治会 学校部活動の状況について	9
(教育長回答)	9
10 小貫山自治会 シェアオフィスについて	10
(経済環境部長回答)	10
11 稲田自治会 教員のなり手不足について	10
(教育長回答)	10

【事前質問】

1 柏野自治会 交通安全対策の実施について

通学路としての路面標示，及び路面の色表示をして頂きたい。

(道路管理課，保健給食課回答)

令和4年10月6日付で回答しましたとおり，路側帯を確保し歩行者の歩くスペースを運転者に意識させるため，昨年度，外側線を設置いたしました。

しかし，路肩が狭く，全体に色表示(グリーンベルト)を設置することが困難なため，今年度については部分的ではありますが，線路側の施工可能な場所についてグリーンベルトを設置してまいります。

また，路面標示については，「学童注意」を2箇所設置いたします。

なお，施工時期につきましては，9月から効果が発揮されるよう夏休み期間中を予定しております。

【懇談内容】

1 高野小貫山自治会 子育て世帯訪問支援事業について

事業内容について具体的に教えていただきたい。

(子ども部長回答)

令和5年度からの新規事業になります。国が推進するアウトリーチ型の事業で，とても養育が難しいような家庭について，こちらからお伺いして子育て支援をしていくもので，今後，委託先を募集し，実施してまいります。

(市長補足)

どうしても子育て中での虐待，ネグレクトというところは我々も把握しようとは思っているのですが，やはり家庭の中のことで，見えなくなっています。いろんな情報の中で，この家庭は待っていても，らちが明かないなというようなケースもやっぱりございます。

そういった家庭に対してはアウトリーチ型と言ったのは，窓口を設けて何かあったら相談に来てくださいという形ではなくて，こちらから積極的にそういった家庭に行かせていただいて，そして一緒に課題解決をしていこうというものです。

うちの場合は，保健師がいるのですが，その他に民間のいろんな事業者が，そういった子育て支援をやっていたりするので，基本，協働でそういったご家庭を見守っていこう，もしくは課題解決のために，一緒に事業に取り組んでいこうという新しい事業になっております。

(高野小貫山自治会 再質問)

民生委員児童委員の役割と違うところはあるのか。

(子ども部長回答)

民生委員児童委員さんも、そういった困り事というのは聞くのですが、例えば、一緒に夕飯を作ってみたりとか、一緒に遊びに行ってみたりとか、さらに踏み込んだ支援をこの事業で行っていこうと思っています。

(市長補足)

平たく言うと、民生委員児童委員の方々にも協力していただきます。ただこの話は、例えば児相につないだり、いろんな機関と連携していかなければいけないというような中で、民生委員さんが全部の解決を最初から最後までとはなかなか難しいというところで、市の方の機関を中核にして、連携を取っていこうと強化されたというふうにイメージしていただければと思います。

それから、これまで福祉部が大きくなっていましたが、子ども家庭庁が今度できたということもあって、この春から子ども関連と保育、保健行政の一部を子ども部の所管とし、それ以外は保健福祉部が所管するというので2部に分けています。

これは、福祉部の所管が大きくなりすぎたということもありますが、子ども家庭庁と合わせて、子どものいろんな状況に対して機能を強化していこうというふうな思いもあってのことです。

2 下高場自治会 佐和駅東地区の区画整理事業について

事業が始まってから 20 年以上経つが、進捗が思わしくないように感じる。一部地区では、雨水の排水ができず浸水被害がでている。事業のスケジュール等について、住民向けの説明会を検討してほしい。

(都市整備部長回答)

まず、雨水の排水についてですが、下流側から申しますと、ココスがあるところとマクドナルドがあるところは大体雨水管を繋いでいまして、今年の 10 月から 11 月頃には高場幹線の方に繋がる計画なっております。

さらには、マクドナルドからホンダのディーラーの間には、昨年度までに推進工法で、雨水管がすでに敷設されてございまして、ホンダの前で工事中の箇所があると思いますが、あそこが、佐和駅から高場高野線の下を通過して雨水管が繋がるようになります。

第 1 工区については、平成 24 年から 30 年度まで大胆な見直しをして、皆様のご協力いただきながら、駅前広場や、幹線道路となる都市計画道路を優先的に進めるということで、やって参りましたが、全体計画としては、令和 13 年度を目途に第 1 工区は終了したいと

考えてございます。

それと、第2工区につきましても、第1工区の見通しが立ってから着手するというところでございまして、現在のところ、先ほどの都市計画道路ですとか、駅前広場の概成も形が見えてきましたし、また、まだ未整備となっている勝田佐野線の水戸信用金庫までの区間ですとか、また高野小貫山方面に抜ける区間についても、事業計画としてはすで位置づけしておりますことから、第2工区の整備に向けても、計画を着手するために、アンケートを2回ほど送らせていただいて3回目のアンケート調査を、これから送らせていただいて2工区についても整備に目途をつけていきたいという計画で、進めているところでございます。

進捗状況についての説明会というご要望ですが、今のところ特段考えてはいなかったのですが、全体の説明がよろしいのか、或いはブロックごとの説明がよろしいのか、担当課の方にお話をいただければと思います。

(下高場自治会再質問)

ブロックごとで結構。特に自宅周辺が未舗装で、埃による被害が続いている。また、降雨時に床下浸水する家屋もある。

(都市整備部長回答)

当該エリアの152メートルほどの雨水管整備を今年度予定してございまして、さらにその北側から佐和駅に向かう区間も令和6年度に、雨水幹整備を予定しております。詳細については、担当課の方から、間違えない内容で説明をさせていただければと思います。

3 高野宿自治会 渋滞緩和対策について

旧瓜連馬渡線の高野十字路や、東石川高野線と瓜連馬渡線の交わるT字路について、右折車線が無いため、朝夕渋滞する。渋滞緩和の対策、交差点改良などを予定しているのかお聞きしたい。

(都市整備部長回答)

当該箇所の交通がやや滞ること把握していますが、一方で、佐和駅を背中側にして、水戸信用金庫まで新しい道を抜く、佐和停車場高野線を令和7年度、或いは8年度までに開通させたいと考えています。

その先、瓜連馬渡線のローソンがあるところまで、令和3年度の計画見直しで、幅員は狭まりましたが、都市計画道路の計画がございまして。

また佐和地区内で高場高野線という小貫山に向かう道もできますので、おそらくここ数年で交通体系はかなり変わると思っております。市としても注視しながら、都市計画道路の整備とあわせて検討して参りたいと考えていたところです。

4 小貫山自治会 障害児サービスの自己負担額について

マル福の所得制限が10月から撤廃されるということで、非常に感謝している。併せて要望として、障害児サービスの所得制限についても検討をしてほしい。所得に関することは、同じ障害を持つ親同士も話ができず孤独感や疎外感を感じやすい。国の制度で決まるところかと思うが、自治体独自に所得制限を撤廃する事例もある。自治体でも検討してほしい。

(保健福祉部長回答)

ご意見の方ありがとうございました。障害児の制度につきましては、国の方でも大分拡充の方はしてきたところがございます。ひたちなか市内でもサービス提供事業者等、増えてきたところですが、所得制限についていただきましたご意見につきまして、受け止めていきたいと思っております。

(市長補足)

私も小学校6年生の娘と、保育園の年長を育てる父親ということで、様々な声は受けとめさせていただいております。

そういった中で、この社会保障制度というのはどういうふうにか考えるのかというのは、私は、福祉の分野に関しては、とにかく、国の方にもしっかりと声を届けていかなきゃいけないというふうに思っています。

市独自でいろんなことをやってくというのは、自治体間の善し悪しってこともあると思いますけれども、これが福祉のところでも大きく変わってくることがあって良いのだろうかというのは、率直に私は、市長というより父親としても思っているところです。

こういったところを全国市長会の方も、課題として考えているので、ある程度どこに住んでいても基本的な福祉であったり、医療であったりは、国の方が一定の水準をしっかりと担保していくと。

産業政策とか経済政策はお互い大いに切磋琢磨していこうというような考え方の方が、私としては腑に落ちるというのが、正直なところです。

いろいろなチャンネルを通じながらですね、課題に関して、ある程度包容力がある社会の実現になれるように、発言をしていこうと思っておりますので、ご理解いただければなと思います。

5 高野原自治会 介護施設のコロナ対策に対する指導について

市内の介護施設のコロナ対策などについて、市ではどのような指導を行っているのか伺いたい。

(保健福祉部長回答)

感染症につきましては、県の保健所の方が、直接的な指導をするということになっております。ただそうは言いましても、ひたちなか市内に介護保険施設がたくさんございますので、2類から5類に変わるにあたって、高齢者福祉施設等、医療機関と勉強会をするなど、連携はできるだけとるようにしています。

また市内の医療機関の調整につきましては、病院間でやるというようなことになっております。

(市長補足)

平たく言うと、県の保健行政は保健所管轄ということで、ひたちなか市の方から個別に指導はできづらい状況です。さらには、感染症法上、2類から5類になったということで、基本的にはそれぞれの施設において、基本的な感染対策をしていただきますので、何かそれに対してプラスアルファをお願いするということは、できづらいという状況になっております。

ただ、部長の方からもあったように、急に5月8日に5類になったからといって状況が劇的に変わったわけではなく、やはり混乱もあるだろうということで、市独自に消防、福祉施設、病院、保健所で集まって、どういふふうに対応するか協議しているというのが今紹介したところです。

特に消防の救急搬送の逼迫というのが、昨年から非常に大変な状況になってきております。さらにこれが、今まではコロナの疑いがある患者は、保健所が把握して保健所が入院調整をしていたという形でありますけれども、今度それをやらなくなるわけですね。

そうすると、福祉施設で、感染疑いがある場合、本当は主治医がいて病院に繋いでくれればいいのですが、そうではなく、全部が救急の方に行ってしまうと、パンクするということもありますので、医師会としっかり話をして、町場のお医者さんが、ある程度受け入れてもらう。あとは、各福祉事業所も主治医がいらっしゃいますので、そこである程度の判断をしてもらう。

それを徹底するための勉強会というか協議体を市独自で作らせていただいて、強制力はありませんが、なるだけ変化に穏やかに対応できるように、市として権限がないと言っているだけではなく、取り組みもしているという状況です。

(高野原自治会 再質問)

ある福祉施設でコロナが流行し、3週間の面会謝絶となっている。感染拡大を食い止める力のない施設に対して、県とともに市でも指導していくべきではないか。

(市長回答)

それぞれの施設の運営に関しては、それぞれ県が管轄しているところでありますので、

この後、もし具体的にそういう話があれば、市の介護保険課を通じて、県の方にそういった話を上げていくというような形になるかと思えます。

6 柏野自治会 佐野運動広場テニスコート跡地の利活用について

支柱等が撤去され、放置された状態が続いている。有効活用する方法について検討してほしい。

(市民生活部長回答)

数年前からお話をいただいているということで、以前にもお答えをさせていただきましたが、新たなテニスコートの整備は、考えておりませんということはお伝えさせていただいたかと思えます。

古くなった支柱などは、老朽化しているということもありますので、今回撤去させていただきました。今後、どういう土地利用を図っていくか、活用していくか具体的な計画は現在ございませんが、この施設自体広場というような形になっておりますので、地域でのイベントなどにご活用いただければと考えております。

(都市整備部長回答)

柏野地区の公園整備については、少なくとも平成 30 年度頃からお話をいただいております。昨年のこの場においても、このテニスコートを生かした公園の整備の検討についてご意見いただいたところでございます。

先日、ご足労いただき、私どものこの 1 年間の取り組みや、今後の考え方などをお話させていただき、また改めて柏野団地を、航空写真などを見ながら、また現地に足を運んで適切な公園の敷地があるかという点でいろいろ考えたりもしております。

また、会長さんからも、3か所ほど、公園の候補地としてご提案いただいたところでございますが、なかなか適地と考え得る敷地が見当たらないところでございます。

また、自治会におかれましても、ちびっこ広場は臨時の駐車場としてお使いいただいたり、また倉庫を置いていたり、また柏野会館に隣接する柏野公園も、広場のままの方が、臨機応変な対応ができるということでそのままにして欲しいという声が多く、なかなか公園整備の見通しが立たない状況でございます。

今後も、こういった場のみならず、平時においても、ご意見などいただきながら、少しでも前に進められるように、お話ができればと考えているところでございます。

7 高野原自治会 高野小学校の塗装、修繕について

老朽化により見栄えが悪い。塗装、修繕等予定はないか。

(教育部長回答)

かなりタイルが浮き上がっているような状況を確認しており、落下する危険性もあるということで、今年度、外壁タイルの改修工事を実施する予定でございます。

8 高野原自治会 小学生へのリュックサック支給について

市から支給をしている自治体があるが、ひたちなか市では予定はないか。高額で保護者にとって負担でもある。

(教育長回答)

小学校の方では、ランドセルでなければならないという決まりはなく、「背負いかばん」としてはいますが、多くの方がランドセルを用意していただいている状況です。

中には、リュックの子や、キャスター付きのものを使っている子もおります。基本的にこれではなくてはいけないという形を決めてはおりませんが、背負うものの方が、両手も両足も使えて、安全であるということ、後頭部を守るクッションになることから、推奨しています。

必ずしもランドセルでなくても良いとくことは、入学説明会の時にも全ての小学校で説明はしているはずで。

支給については、やはり子供たち、選ぶことを楽しみにしているところもございますので、一律に皆同じではなく、選べるような幅を持たせていきたいと思っています。

9 佐和駅前自治会 学校部活動の状況について

部活動の現状について伺いたい

(教育長回答)

部活動の地域移行が話題になりまして、何か中学校の部活動が、すぐなくなってしまっていて、子供たちが路頭に迷ってしまうのではないかというご不安を与えているところがあるのではないかと心配しているところがございます。

部活動の地域移行は、先生たちの働き方改革ということが、表には出ておりますけれども、本来は、子供たちのスポーツをもっと自由に選ばせていこうとか、また専門的にやりたいことをもっと深めてやってもらおうとか、地域とスポーツと学校が密着したようなシステムに作り変えていこうという本旨でスタートしているところです。

ですので、県によっても地域によっても、スタート地点も違いますし、また環境によっても、やり方も違っております。本市におきましては、まずは、大会の見直し、また中体連のあり方検討などを中心にスタートしています。

例えば、これまで学校しか大会に出られなかったところをクラブチームも出場可能にしたり、緩やかに変更しています。

先生たちは、その部活動の経験者だけではありません。先生になって初めてその種目を

担当した方が60%います。ですので、やはり専門のコーチがやっているところに行きたいという子は是非ということを進めようとしております。まずは、中学校が無理なく進められるよう、地域環境の整っている学校でモデル校を作ってやってみようとしています。

また、時間の制限や休日を増やすなども変えていっているところです。勝田一中とか美乃浜学園とか、佐野中もそうですが、今まで6時、7時までやっていた部活を5時半で切り上げています。それで弱くなったかという、そんなことは無く、大会でも優秀な成績を収めています。

また、今年から各学校に1人ずつ、部活動指導員を配置しております。地域移行、地域移行という、何かこう地域に追い出していると感じられてしまうかもしれませんが、そうではなく、地域で活躍する中学生をどんどんふやしていこうということです。

長期的には、例えば企業や大学との連携、それから総合的スポーツクラブとの連携なども模索しているところです。

その地域のスポーツ力とか、文化力とか、そういうものがこれから問われてくるころではありますので、少しずつ少しずつ固めていこうかなと考えております。

10 小貫山自治会 シェアオフィスについて

他の自治体ではシェアオフィスが充実していたが、ひたちなか市ではどのような状況なのか。また、これから充実させていく予定はあるか伺いたい。

(経済環境部長回答)

現在、シェアオフィスはひたちなかテクノセンターにあり、オフィスの貸し出しやワーキングスペースなどを提供しております。

阿字ヶ浦の方で、働きながらの観光ということでワーケーションの取組を一般社団法人が進めております。まずは、ひたちなかテクノセンターの方でお問い合わせなりご相談いただければと考えております。

11 稲田自治会 教員のなり手不足について

教員採用試験の競争倍率が下がり続けている。働き方改革なども徐々に進められているようだが、教員OBの協力を得た教員サポーター制度をひたちなか市でも積極的に検討してはどうか。

(教育長回答)

大変貴重なご意見をいただきまして、私も同感でございます。先日、退職校長会がございまして、退職された校長先生たちに、是非一緒にやっていた方にお声かけいただき、学校への協力をお願いしたいと話をしたところです。

校長会では、これから地域の方が地域の子どもたち、学校のために、何かやってやるか

と言ってくれるような、関係づくりを目指して欲しいということで、コミュニティスクールという概念を広げていっているところでございます。

教員サポーター制度は、茨城県は、制度化できていないため、教育長会で要望をしようと言っているところです。

関連で、本市では、先生以外に、スマイルスタディサポーターを、小学校に12名、特別支援の必要とする児童生徒に対して介助員を、小中学校合わせて88名、部活動指導員を8名、部活動指導員補助を27名お願いして、教員のサポートにあたっています。

学校によっては、それだけでなく、独自にボランティア募り60名登録している学校もございます。

そういった動きを広めていく中では、不審者対策という課題も無いわけではありませんが、その辺はフェイストゥフェイスで、お互いが顔の分かる関係であるといったことを確保しながらも、皆で子ども達を育てていくということが必要だと思います。先生と子ども、親と子どもという関係だけでは、これからの子は育たないと思いますので、みんなで一緒に社会性を培っていくことが非常に大きな課題ですので、努めていきたいと思っています。